

東北地域に向けたスマート放牧と持続可能な自給飼料生産利用現地シンポジウム 開催要領

1. 趣旨

スマート放牧技術を取り入れた畜産は、低コストでの自給飼料生産利用と農地の維持管理が期待できることから、中山間地域において注目されている。また、持続可能な畜産体系の構築と実施が、畜産業に必要とされている。

本シンポジウムは東北地域に向けた、スマート放牧と持続的な自給飼料生産利用に関する、農研機構西日本農業研究センター、畜産研究部門、東北農業研究センターの成果の情報発信として、荒廃農地再生技術の実演を行うとともに、現場で営農する上で役立つと考えられる最新情報を除染技術も含め提供する。また持続型農業は生態系に配慮する必要があるが、この点に配慮した研究を実規模で実施している東北大学大学院農学研究科草地—動物生産生態学分野の取り組みを紹介する。

本シンポジウムを通じ、東北地域において、スマート放牧技術等を活用した持続的な自給飼料生産を基軸とした、畜産物生産へ活用されることを期待する。

2. 共催

農研機構西日本農業研究センター、畜産研究部門及び東北農業研究センター、
東北大学大学院農学研究科、一般社団法人日本草地畜産種子協会、
イノベ事業 04018C2 コンソーシアム

3. 開催日時

令和7年5月14日（水曜日）13:00～15:30

小雨決行（荒天時は屋内説明）、屋内説明の場合、前日の 16:00 までに申込時のメールアドレス宛にご連絡いたします。

4. 場所

東北大学大学院農学研究科 附属複合生態フィールド教育研究センター複合陸域生産システム部
（川渡フィールドセンター）
（〒989-6711 宮城県大崎市鳴子温泉字蓬田232-3）

5. 対象範囲

農林水産省、東北大学職員・学生、公共牧場関係者、地方公共団体、JA、農業生産者、農研機構、
荒廃農地解消や放牧に関心のある者

6. 内容

集合：川渡フィールドセンター駐車場 (13:00)
移動：川渡フィールドセンター駐車場から川渡フィールドセンター内現地 (13:05～13:30)
開会挨拶 (13:30～13:35)
東北大学大学院農学研究科 附属複合生態フィールド教育研究副センター長
教授 加藤 健太郎

技術実演・紹介

(1) 荒廃農地再生技術の説明と実演 (13:35～14:15)

農研機構西日本農業研究センター 主任研究員 柿原 秀俊

(2) スマート放牧関連技術の紹介 (14:15～14:25)

農研機構西日本農業研究センター グループ長 平野 清

農研機構畜産研究部門 上級研究員 中村 好徳

(3) 傾斜草地における除染技術と除染後の放射性セシウム移行 (14:25～14:35)

農研機構畜産研究部門 上級研究員 山田 大吾

日本草地畜産種子協会 放牧アドバイザー 梶村 恭子

(4) 温暖化に対応した東北地域における草地メンテナンス技術 (14:35～14:45)

農研機構東北農業研究センター 上級研究員 東山 雅一

(5) 東北大学大学院農学研究科 草地―動物生産生態学分野の取組 (14:45～14:55)

東北大学大学院農学研究科 教授 小倉 振一郎

質疑および意見交換 (14:55～15:00)

閉会挨拶 (15:00～15:05)

農研機構西日本農業研究センター 周年放牧研究領域長

渡辺 也恭

移動：川渡フィールドセンター内現地から川渡フィールドセンター内駐車場 (15:05～15:30)

7. 参加費

無料

8. 定員

60 名(先着順、定員になり次第締め切ります。)

9. 申込方法

農研機構西日本農業研究センターのホームページ

(<http://www.naro.affrc.go.jp/laboratory/warc/>)のイベント・セミナーのお知らせから、参加申込フォームにより、または、所要事項を記載して、下記メールアドレス宛てに、5月9日(金曜日)までに事務局へお申込みください。

10. 申込先・問い合わせ先

農研機構 西日本農業研究センター 周年放牧研究領域 柿原 秀俊

メールアドレス: sanbe-symposium@ml.affrc.go.jp